

大都市西安における公共浴池の利用と住宅内衛生間における居住者の入浴慣習の実態 (第1報)

中国都市集合住宅における居住者の入浴慣習の現状と入浴空間の住様式上の検討

趙 萍, 今井 範子*

(奈良女子大学大学院人間文化研究科, * 奈良女子大学生活環境学部)

原稿受付平成13年7月30日; 原稿受理平成14年3月18日

The Actual Conditions of Bathing Habits in Public Baths and Residential Bathrooms in Urban Apartments in Xi'an (Part 1)

A Study about Bathing Habits of Residents and an Investigation of Bathrooms in Urban Apartments in China

Ping ZHAO and Noriko IMAI*

Graduate School of Human Culture, Nara Women's University, Nara 630-8506

** Faculty of Human Life and Environment, Nara Women's University, Nara 630-8506*

This study discusses the bathing habits and bath space of the residents of urban apartments in Xi'an city, China, from the viewpoint of the dwelling style. Part 1 considers the actual state of bathing consciousness and the trend of bathing style of the residents of urban apartments in China. Ninety percent of the households targeted in this research utilize mainly the bathroom for bathing, and 90% of those who use the bathroom shower themselves for bathing. It is confirmed that an increasing number of residents feel the need to have their own bathroom and that the shower-type bathing has become the main stream of their bathing method. It is true that they bathe mainly for keeping themselves clean while aiming to take out fatigue, but it should be pointed out that there is a trend of bathing also for the purpose of beauty, relaxation, and diversion. In other words, their bathing consciousness has been diversified. Another point that came to our attention is that some residents have acquired a habit of bathing in the morning, an indication that there is a change in their bathing habit.

(Received July 30, 2001; Accepted in revised form March 18, 2002)

Keywords: urban apartment 都市集合住宅, dwelling style 住様式, consciousness of bathing 入浴意識, bathing style 入浴様式, bathroom 浴室, China 中国.

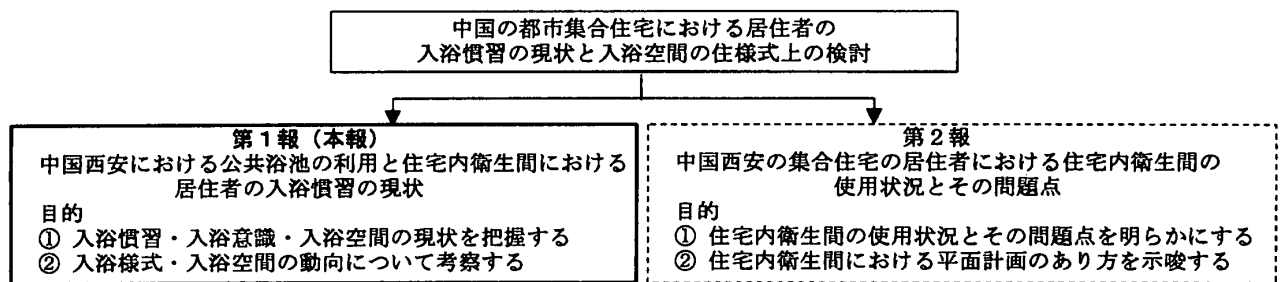
1. 緒言

近年、中国の経済が高度成長するにつれ、都市居住者における住生活の水準^{*1}や清潔意識が向上するとともに、住宅に対する関心も高まりつつある。さらに、大量生産により、浴室空間に必要な種々の設備が入手しやすい価格になってきた。このようなことを背景に、

都市集合住宅では、浴槽・洗面台・便器3点が1室になった浴室空間が導入され、さらに、シャワーコーナーの設置やシャワー器具の充実など浴室設備の改善が進んできた。それにともない、都市居住者の入浴慣習や入浴方法、さらに入浴意識において、著しい変化が生じつつある。本研究は、中国都市集合住宅の居住者における入浴様式と入浴関連空間に着目し、居住者の入浴空間として、住宅内浴室と公衆浴場の双方を対象とし、居住者の入浴慣習と入浴空間の全体像を捉えよ

*1 1人当たりの平均住宅面積は、1978年の3.6 m²から1995年の8.1 m²に至った(『中国年鑑』1997年による)。

表 1. 本研究の構成



うとするものである。

現在の中国人の入浴空間として、「公共浴池」*²と「住宅内衛生間」*³が挙げられる。後述のように、前者は歴史が長く、後者は近代に入ってから出現したものである。

『世界温泉文化史』によると、中国の入浴の歴史は、周王朝の時代まで遡ることができ、すでに当時（紀元前1000年～500年）、中国語には、身体を洗う、口を拭く、洗髪、浴室、浴槽などの入浴に関係する表現が存在していた¹⁾。「公共浴池」は、寺院や宮廷に存在する齋戒沐浴のための「温室」や「浴室」が、一般へ普及したものである。『世界温泉文化史』によれば、「すでに13世紀（宋代）に、マルコポーロがその規模の大きさと数の多さを賛嘆した」という「公共浴池」に関する記述がみられる。「公共浴池」について詳細に記述したのは、『清俗紀聞』²⁾であり、これによると、当時の浴堂（庶民向けの「公共浴池」）は、日本の銭湯に非常に似ている。浴池の中には、現在の「公共浴池」にみられるシャワー設備はないが、上がり湯（陸湯）があった。また、『清俗紀聞』の版画²⁾に描かれているように、昔から中国人は、浸かりながら（当時、木製の浴槽やたらいに浸かっていた）身体を洗う慣習を持っていることがわかる。

現在の中国の「公共浴池」は、イスラムの影響を強く受けたといわれている³⁾。さらに、1950年代以降、庶民の健康を配慮し、生活上の衛生条件を高めるために、中国政府は、「公共浴池」を大量に建設した。この時から多くの都市居住者は、「公共浴池」を利用するようになっていった。これらの「公共浴池」は、営利目的のもの（日本でいう銭湯）と福祉目的のものに

分けられる。本研究の「公共浴池」は、後者に属し、諸機関*⁴が福祉事業として従業員のために提供したものである。

また、「住宅内衛生間」の場合、3点1室のものが多く、しかし、このような3点1室の「住宅内衛生間」は、1970年代以降都市部において普及するまで、高所得層のごく一部の居住者が居住する独立住宅や集合住宅にしかみられなかった。

さらに、中国は乾燥した気候風土であり、水の豊かではない地域が多く存在しているため、中国人の入浴は、歴史的に非日常的な生活行為として存在してきた。これまでの中国における入浴方法は、次のように大別できる。「浸かる式」（桶や浴槽に湯水をためて浸かりながら体を洗う）、「シャワー式」、「行水式」（たらいや洗面台にためた湯水を体にかける）の三種である。

ところが、近年、とりわけ1980年代以降、住生活をはじめ生活全般の水準の向上にともない⁴⁾、前述のような3点1室の浴室空間が住宅に導入され、浴室設備が改善されてきた。これにともない中国の都市居住者の入浴慣習や入浴空間の利用等において著しい変化が生じつつあると予想される。しかし、これらの内容を扱った過去の研究はみられない。そこで本研究では、中国都市集合住宅の居住者を対象とし、「住宅内衛生間」と「公共浴池」の双方から、入浴慣習の実態を明らかにし、さらに、浴室関連空間の使われ方の現状と問題点を把握し、住様式の視点から、入浴空間の検討を行おうとした。表1のように、第1報では、入浴慣習や入浴方法、入浴意識などのソフトな生活面からの諸問題を取り扱う。まず、居住者の「公共浴池」の利用状況と「住宅内衛生間」の入浴状況から、居住者の入浴慣習の実態を明らかにするとともに、「公共浴池」と「住宅内衛生間」の利用関係から今後の入浴慣習の

*² 公衆浴場や公衆風呂のことを指す。中国語では「澡堂」、「浴室」、「浴池」ともいう。

*³ 浴室、便所、洗面所などの空間を指す。「厕所」や「洗手间」ともいう。浴室空間に重きを置く場合、「浴室」や「洗澡間」ともいう。

*⁴ 国や諸機関（各省、直轄都市）が所有する研究所・大学・病院・銀行・公司・企業等を指す。

大都市西安における公共浴池の利用と住宅内衛生間における居住者の入浴慣習の実態（第1報）

動向について考察する。さらに、入浴慣習の背後に存在する居住者の入浴意識について考察を加え、今後の発展方向を探ることが第1報の目的である。なお、第2報では、浴室空間や平面計画などハードな面からその諸問題を取り上げ、第1報において得られた結果を踏まえて、浴室空間と浴室関連空間の使われ方などの問題点を把握した上で、今後の都市集合住宅における衛生間の平面計画の改善に資する知見を得ることを目的としている。

2. 研究方法

(1) 調査対象の選定

現在、中国の都市において、住宅総面積の90%以上を占める集合住宅の居住者を対象とすることとした⁵⁾。さらに、都市居住者の住様式における新しい動向を把握するために、近年増加しつつある「永久居住権」のある新しい所有形態^{*5}の集合住宅を選定し、なかでも、とりわけ居住面積が広く（「中国都市小康住宅プロジェクト」の内容によると、1990年代初期中国建設部が出した2000年の住宅の目標は、1人当たりの平均居住面積は8m²、1住戸当たりの延べ床面積は50～55m²である。しかし、後述のように本研究の調査対象住宅は、1住戸当たりの延べ床面積が80m²以上となっている。）⁶⁾、衛生間も比較的広く、「大客^{ダイ}庁^{テウ}（大きいリビング）」「小臥室^{ショウガシツ}（小さい寝室）」という現在の集合住宅に多く見られる平面を持つ住宅を対象とした。それは、このような住宅に居住する居住者は、生活水準が比較的高く、生活先進層として、今後の住様式の動向を探るのに適した居住者層と考えたからである。

国土が広大な中国においては、入浴空間は、都市間では類似しているが、都市部と農村部とでは、差が存在する。その差は、経済的事情によりもたらされたものである。例えば、都市部においては、住宅内に入浴空間が設置され、入浴設備が比較的整備されている。しかし、農村部においては、住宅内に入浴空間が設置されていないため、居住者は、非日常的に行水し、或

いは、町に存在する営利目的の公共浴池や近辺の諸機関が経営する福祉目的の公共浴池を利用している。

また、入浴慣習については、北方地域と南方地域による地域差が存在する。その差は、気候風土によりもたらされたものである。高温多湿である南方地域の居住者の方が、北方地域より入浴の頻度が高い傾向がある。なお、本研究では、中国の内陸部にある西安に立地する集合住宅（研究所1地区、病院1地区、国営企業2地区の計4地区に存在する住宅）の居住者を対象とした。

(2) 調査方法と調査状況

上記の調査対象に対し、質問紙調査と併行して事例調査を行った。496世帯を対象とし、拒否をのぞいて4地区合わせて453部を配布した。有効サンプル数は357であり、回収率は78.8%である。なお、事例調査は14世帯（タイプ1の5世帯、タイプ2の4世帯、タイプ3の5世帯）の居住者を対象に実施した^{*6}（図1）。調査期間は1999年8月である。

3. 結果および考察

(1) 調査対象住宅と居住者の概要

調査対象住宅は、建築年数3年未満、延べ床面積80m²以上の集合住宅を選定した。どのタイプも3室（臥室・書斎など）2庁（客厅と餐厅）であり、1住戸当たりの延べ床面積は、表2のとおり80～100m²の住戸が最も多く、7割近くを占めている。そして、図1のように、タイプ1は、衛生間が2箇所あるタイプである（シャワーコーナー・便器・洗面台の3点1室の衛生間と、便器・洗面台の2点1室の衛生間がある）。タイプ2は、便器・浴槽の2点1室の衛生間と、それに隣接して洗面所（造り付け洗面台のある）をもつタイプである。タイプ3は、シャワーコーナー・便器・洗面台という3点1室の衛生間が導入されているタイプである。

諸機関^{*4}が供給するこのような住宅に入居できる居住者は、高収入者層が主である。その中には、一般の従業員も役員もいる。諸機関は、一般の従業員や役員の勤務年数や職階に基づき、それ相応の住宅を市販の商品住宅に比べて比較的安価な価格で提供してきた^{*5}。

しかし、タイプ3の住宅の場合、住宅の所有者である諸機関^{*4}は、勤務年数や職階に関係なく、若い高収

^{*5} 住宅の公有から私有の間にある中間的な住宅の所有形態をさす。これらの住宅は、国をはじめとする諸機関が、福祉事業として従業員に供給したものである。所有権は、諸機関が持ち、永久居住権は、居住者が持っている。永久居住権を購入するには、高額のコストが必要であるが、市販の商品住宅に比較すると、その価格は1/10～1/5にすぎない。

^{*6} 本研究では、衛生間の構成により調査対象住宅を3タイプに分けた。詳細は、「3-1) 調査対象住宅と居住者の概要」参照。

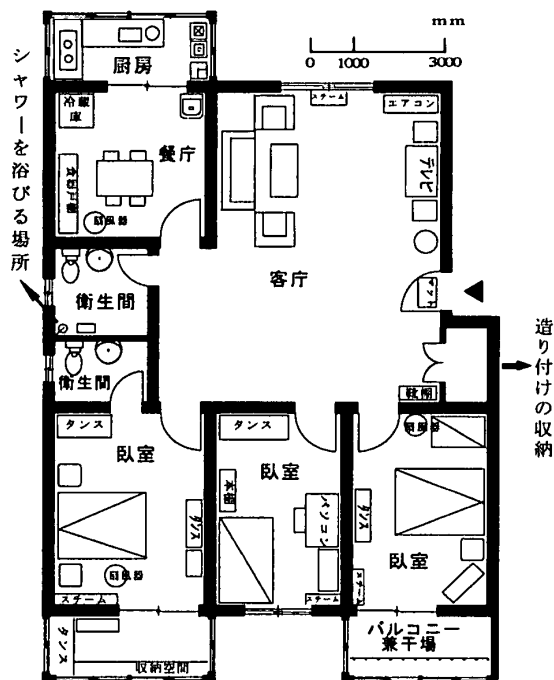


図 1-1. 調査対象住宅の平面図 (タイプ1 約 123 m²)

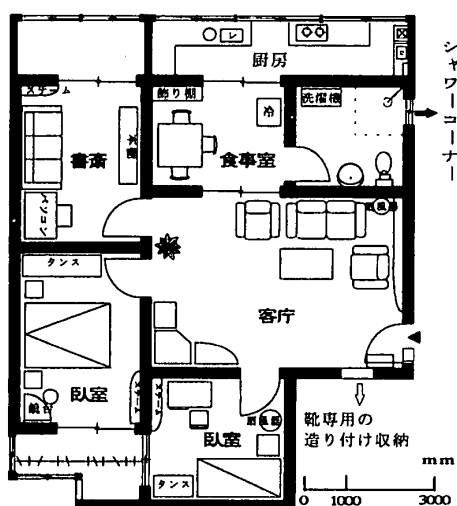


図 1-3. 調査対象住宅の平面図 (タイプ3 約 90 m²)

入の一般の従業員にも、購入権を与えた。しかし、その販売価格は、勤務年数や職階相応の居住者向けの販売価格より、約2倍高くなっている。このように、若い年齢層にも永久居住権を販売したため、表3のように、調査対象世帯の世帯主の年齢層は、35～40歳未満が中心である。長子の属性については、「小学生」が3.5割、「中・高生」が約3割を占め、学齢期の子供のいる世帯が多い。世帯類型は、「夫婦+子」が7割以上を占め、核家族が中心である。さらに世帯人数は「3人」が最も多く、7割近くを占めている。最近、

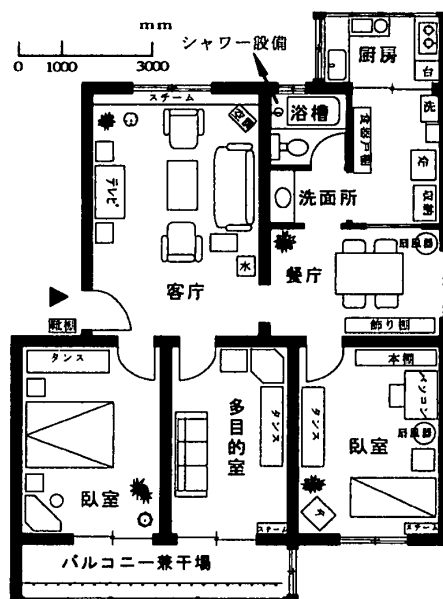


図 1-2. 調査対象住宅の平面図 (タイプ2 約 98 m²)

表 2. 調査対象住宅の延べ床面積

面積 (m²)	全 体	タイプ1	タイプ2	タイプ3
80～100	66.6(238)	0.0(0)	100.0(112)	100.0(126)
100～120	10.4(37)	31.1(37)	0.0(0)	0.0(0)
120以上	23.0(82)	68.9(82)	0.0(0)	0.0(0)
計	100.0(357)	100.0(119)	100.0(112)	100.0(126)

※西安における「国有の研究所、企業、病院が所有権を持ち、居住者が居住権を持つ4地区の集合住宅。単位: % (N)

表 3. 調査対象居住者概要

年 齢	世帯主	長子属性	世帯類型
30歳未満	2.8(10)	乳幼児 1.1(4)	夫婦 4.8(17)
30～35	6.7(24)	幼稚園児 3.6(13)	夫婦+子 73.4(262)
35～40	35.6(127)	小学生 33.3(119)	世代家族 17.1(61)
40～45	23.8(85)	中・高生 27.8(99)	その他 1.4(5)
45～50	13.2(47)	大学生以上 26.1(93)	不明 3.3(12)
50～55	7.3(26)	不明 2.8(10)	計 100.0(357)
55～60	5.9(21)	子供いない 5.3(19)	世帯人数
60～65	2.2(8)	計 100.0(357)	2人 5.0(18)
65～70	0.3(1)		3人 68.9(246)
70～75	0.6(2)	居住年数	4人 23.2(47)
75歳以上	0.3(1)	1年未満 18.8(67)	5人以上 11.8(42)
不明	1.4(5)	1～2年 60.2(215)	不明 1.1(4)
平均年齢	41.9歳	2～3年 21.0(75)	平均人数
計	100.0(357)	計 100.0(357)	計 100.0(357)

単位: % (N)

建設された住宅を対象としているので、居住年数は、1～2年の世帯が6割を超える。

(2) 入浴空間の利用状況からみた入浴慣習の動向
前述のように、「住宅内衛生間」が普及するまで、都市居住者の入浴空間として、「公共浴池」は、大きな役割を果たしてきた。そして、現在では、後述のように、「住宅内衛生間」は、これまでの「公共浴池」に加えて、都市集合住宅の居住者の重要な入浴空間とし

大都市西安における公共浴池の利用と住宅内衛生間における居住者の入浴慣習の実態（第1報）

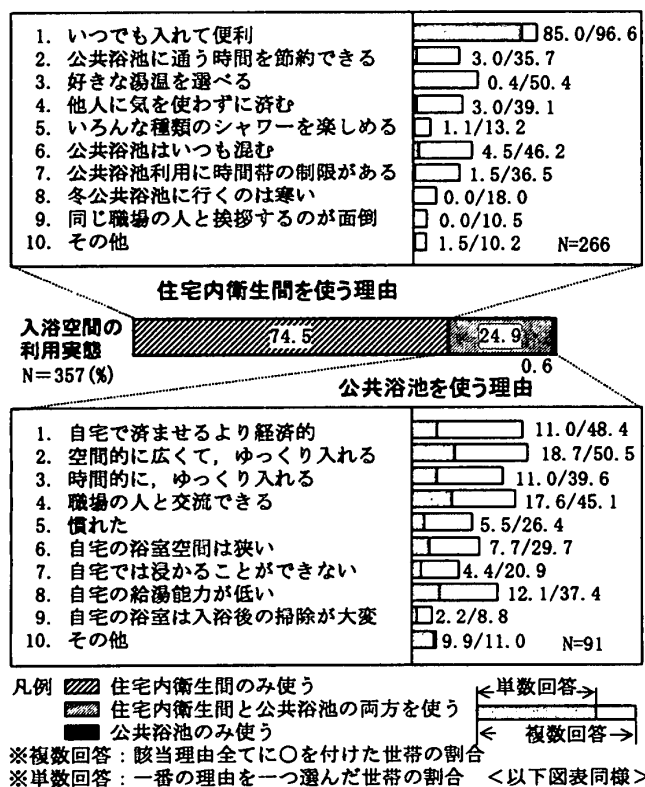


図2. 入浴空間の利用実態とその理由

て位置付けられてきている。

1) 入浴空間の利用実態とその理由

入浴空間の利用実態をみると、図2のように、調査対象世帯の7割強は、「住宅内衛生間」のみを利用している。さらに、「住宅内衛生間」と「公共浴池」の両方を利用する世帯は2割である。この両者を合わせると、「住宅内衛生間」を利用する世帯は、調査対象世帯の9割にのぼり、非常に多いことがわかる。ところが、「公共浴池」を利用する世帯は、全体の3割弱で、比較的少ない。

つぎに、入浴空間をタイプ別にみると、表4のように、タイプ1やタイプ2より、タイプ3の方が、「住宅内衛生間」を利用する世帯の占める割合が高い。また、表5から、タイプ3の世帯に若年層が比較的多いことから、若年層ほど「住宅内衛生間」に対する志向が強いことがうかがえる。

i) 「住宅内衛生間」の利用理由

「住宅内衛生間」の利用理由として考えられる10項目を設定し回答を求めた結果、図2のように、複数回答では、「いつでも入れて便利」「好きな湯温を選べる」「公衆浴場はいつも混む」などの理由をあげる世帯が高率を占めている。単数回答では、9割を超える世帯

表4. 入浴空間—タイプ別—

	住宅内衛生間のみ	住宅内衛生間と公共浴池の両方	公共浴池のみ	計

全体	74.5 (266)	24.9 (89)	0.6 (2)	100.0 (357)
タイプ1	59.7 (71)	38.7 (46)	1.6 (2)	100.0 (119)
タイプ2	72.3 (81)	27.7 (31)	0.0 (0)	100.0 (112)
タイプ3	90.5 (114)	9.5 (12)	0.0 (0)	100.0 (126)

χ^2 検定: *** $P < 0.001$ ** $P < 0.01$ * $P < 0.05$ 以下図表同様
 単位: % (N) <不明のぞく>

表5. 「住宅内衛生間」のみを利用する世帯主の年齢—タイプ別—

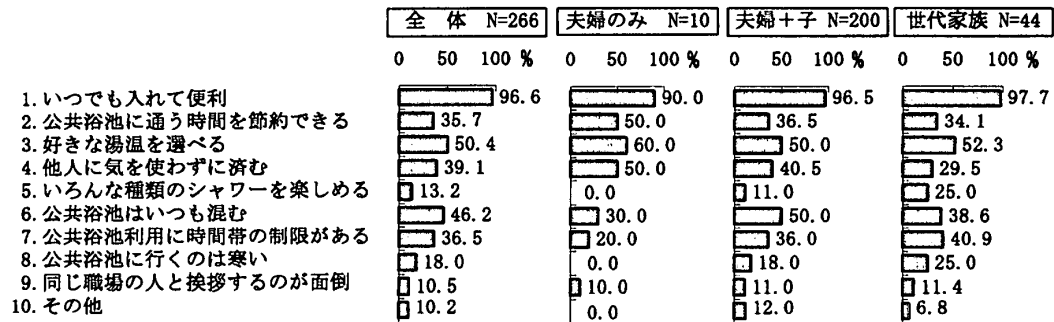
	タイプ1	タイプ2	タイプ3	計
全体	100.0 (71)	100.0 (81)	100.0 (114)	100.0 (266)
40代未満	28.2 (20)	46.9 (38)	58.8 (67)	47.0 (125)
40代	36.6 (26)	30.9 (25)	41.2 (47)	36.8 (98)
50代以上	32.4 (23)	22.2 (18)	0.0 (0)	15.4 (41)
不明	2.8 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.8 (2)
平均年齢	44.2	43.2	38.7	41.9

単位: % (N)

が「いつでも入れて便利」という理由をあげ、最大理由になっている。これには、以下のような、調査対象住宅の近くにある「公共浴池」の使いにくさが関係している。すなわち、①湯温が決まっている、②利用できる時間帯に制限がある、③福祉事業として運営されているため料金が安価であり、住宅内に衛生間のない人々の利用が多いため、いつも混雑している等の使用上の難点が存在している。以上のような「公共浴池」の使いにくさは、中高所得層である本研究の調査対象世帯の、「住宅内衛生間」に対する志向をいっそう強めたと考えられる。また、図2の「その他」の内容は、その7割強が「公共浴池」は衛生的条件が良くないとするものである。以上を総合すると、「公共浴池」に対する種々の不満が、住宅内の浴室利用に向かわせる一因になっていることがわかる。

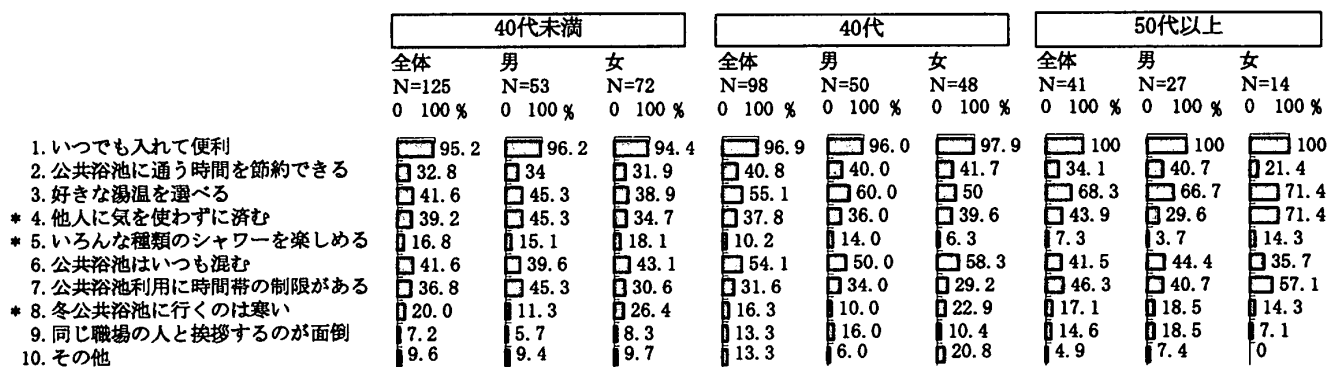
さらに、「住宅内衛生間」の利用理由を、世帯類型別、世帯主年齢別にみると、以下のようなことが明らかになった。

まず、図3のように、「いつでも入れて便利」と「好きな湯温を選べる」では、世帯類型別に差がみられず、どの世帯類型の世帯もこれを最大理由にあげている。ところが、他の理由では、世帯類型別に違いがみられた。例えば、「夫婦のみ」の5割は、「公共浴池」に通う時間が節約できるを、「夫婦+子」の5割は、「公共浴池」はいつも混むを理由にあげている。「夫婦のみ」の世帯には、中高年層が多いことが影響して、「公共浴池」までの距離を実際以上に遠く感じているようである。



※「夫婦+子」は核家族を指す。「世代家族」は多世代同居等を指す。以下図表同様全体の266には、「その他」の3世帯と世帯類型「不明」の世帯が含まれている。

図3. 「住宅内衛生間」を使う理由—家族類型別—



χ²検定: ***P<0.001 **P<0.01 *P<0.05 <不明のぞく> [複数回答]

図4. 「住宅内衛生間」を使う理由—年齢別・男女別—

つぎに、年齢別、性別で、「住宅内衛生間」の利用理由みると（図4）、年齢が高いほど、「好きな湯温を選べる」をあげる者が多い。前述のように、「公共浴池」の湯温は自由に調節できないようになっているため、中・高年層の居住者にはとくに不満を感じさせている。

また、年齢が若いほど、「いろんなシャワーを楽しめる」と回答する者が多い。近年、マッサージ機能や湯の流れの強さが調節できる機能など、多様な機能を備えたシャワー器具が普及しはじめ、このような便利で、快適なシャワー器具が、とりわけ若年層に受け入れられていることがわかる。これには、① 中国人はシャワー式入浴方法にこだわる（後述(3)の1)), ② 若年層に、入浴を楽しむ意識や入浴に「気分転換」を求める意識が他の年齢層より強いことなどが関係していると考えられる。

つぎに、「他人に気を使わずに済む」については、50代以上の居住者の場合、男性より女性の方がこれをあげる者が多く、女性の7割強がこの理由をあげている。中・高年層の女性にとって、「公共浴池」にお

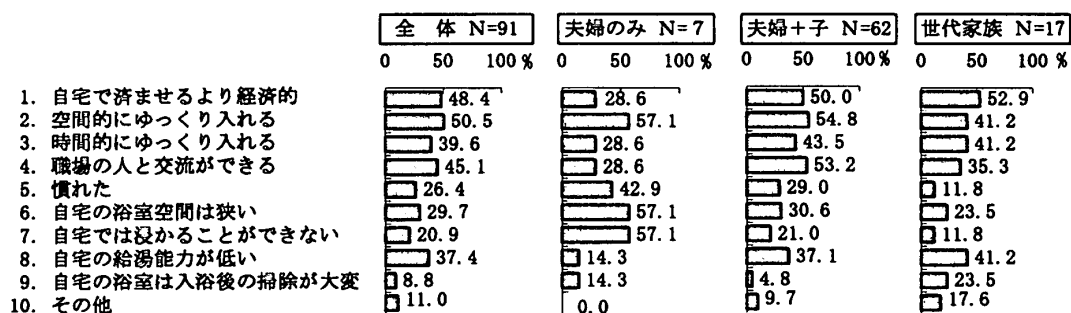
ける他人への気遣いは、わずらわしいものになっていることがうかがえる。さらに、「公共浴池に行くのは寒い」については、40代未満と50代以上の居住者において、性別により違いがみられ、女性の方が相対的に多く回答している。体を冷やすことへの気遣いが女性により多いことが関係していよう。

以上、① 生活水準と住生活意識の向上にとともに、生活の便利さや快適さを追求する意識が強くなったこと、② 大量生産により給湯設備の価格が安価になり、「住宅内衛生間」が整備されてきたこと（例えば、多機能のシャワー器具やシャワーコーナーの設置など）などと、「公共浴池」の使いづらさが加わって、便利な住宅内の浴室利用を推し進めてきたといえよう。

ii) 「公共浴池」の利用理由

「公共浴池」を利用している3割弱の世帯に、「公共浴池」の利用理由を尋ねた結果、図2のように、「空間的にゆっくり入れる」という理由をあげる世帯が最も多く、複数回答、単数回答の両方において、最大理由になっている。ついで「自宅で済ませるより経済的」と「職場の人と交流ができる」という理由が、各々4

大都市西安における公共浴池の利用と住宅内衛生間における居住者の入浴慣習の実態（第1報）



※全体の91には、「その他」の2世帯と世帯類型不明の世帯が含まれている【複数回答】

図5. 「公共浴池」を使う理由—家族類型別—

割強を占め、「公共浴池」を利用する大きな理由になっていることがわかる。

つぎに、「公共浴池」の利用理由を世帯類型別にみていくと（図5）、「空間的にゆっくり入れる」という理由は、どの世帯類型にもあげられる割合が高い。ところが、「自宅で済ませるより経済的」という理由では、世帯人数の多い「夫婦+子」と「世代家族」においてこの理由をあげる者が多い。これには、①前述のように、「公共浴池」は、福祉目的で運営されており低料金で利用できること、②「住宅内衛生間」の場合、給湯機等の浴室設備（居住者が取り付ける）が高価であること、さらに水・電気・ガスなどの諸費用も比較的高価であること等があり、世帯人数の多い世帯にとっては、「公共浴池」を利用する方が経済的で、利用しやすいからである。また、「夫婦+子」の世帯は、「職場の人との交流ができる」を理由に、「夫婦のみ」の世帯は、「自宅の浴室空間は狭い」と「自宅では浸ることができない」を理由に、「公共浴池」を利用していることがわかる。前者の場合、子供のいる世帯ほど、他人との交流を求め、親同士の横のつながりを大切にしていることが影響していると思われる。後者の場合は、これまでの入浴慣習や「住宅内衛生間」の相対的な狭さ（「公共浴池」と比較して）によるものと考えられる。

現在では、都市居住者の生活水準や、入浴意識、清潔意識、生活の利便性を求める意識は向上しつつあり、更に、生活リズムが以前に比べて速くなってきた^{*7}。しかし、諸機関^{*4}が所有する「公共浴池」は、そのほとんどが、日曜を除く平日の夕方以降や、週に数日の夕方にのみ開くので、毎日あるいは随時入浴すること

ができない。このようなことから徐々に、「公共浴池」は、都市居住者の入浴に対する要求を十分に満たさなくなっている。「随時、利用できる」「好きな湯温を選べる」などの、「住宅内衛生間」が保有する長所は、その利用を増やし、そして今後、「公共浴池」から「住宅内衛生間」の利用が主体をなし、都市集合住宅居住者の入浴生活において、「住宅内衛生間」は重要な役割を果たしていくことが示唆される。

2) 利用状況・利用意識からみた「公共浴池」への志向

i) 「公共浴池」での浴槽利用

「公共浴池」を利用する91世帯のうち、浴槽に浸かる世帯は3割（28/91）であり、比較的少ない。これには、以下の理由が考えられる。①「浸かる式」の入浴方法は、女性の体質に適していないという考え方が中国人にあるため⁷⁾、中国では、政府が女性に「浸かる式」の入浴方法を提唱しない方針を採っており、ほとんどの「公共浴池」において、浴槽は男性側にしか設置されていない。このような事情から、「公共浴池」の浴槽に浸かると回答した3割の世帯では、そのほとんどが男性であると思われる。さらに、②緒言で述べたように、昔から、中国人は浴槽に浸かりながら、体を洗う習慣を持っている。その影響もあり、南北の地域にかかわらず、一部の中国人は、なお、浴槽の中で体を洗う慣習を持っている。以上のような、中国における入浴に関わる慣習が影響して、「公共浴池の浴槽の湯は清潔でない」ということで、浴槽利用は比較的少ないといえる。

ii) 「公共浴池」の必要性に関する意識

前述したように調査対象世帯の3割弱しか「公共浴池」を利用していないが、今後の「公共浴池」の発展方向を考察するために、調査対象世帯全体に、「公共浴池」の必要性について尋ねた。表6のように、「公

*7 1970年代後期から、中国では経済改革が行われ、市場経済が導入された。以来、中国社会は競争社会となり、中国人の生活リズムが速くなった。

表 6. 「公共浴池」に対する意識—入浴空間別・入浴方法別・年齢別—

	あった方がよい	なくてもよい
入浴空間 ***		
住宅内衛生間のみ	49.2 (131)	50.8 (135)
住宅内衛生間と公共浴池	87.6 (78)	12.4 (11)
公共浴池のみ	100.0 (2)	0.0 (0)
入浴の方法		
シャワー式のみ	57.6 (156)	42.4 (115)
主にシャワー式	61.6 (45)	38.4 (28)
主に浸かる式	76.9 (10)	23.1 (3)
年齢 ***		
40代未満	52.8 (85)	47.2 (76)
40代	56.1 (74)	43.9 (58)
50代以上	81.4 (48)	18.6 (11)
不明	80.0 (4)	20.0 (1)
計	N=211	N=146

※シャワー式のみ：浸かる式をまったくしない場合 単位：% (N)

主にシャワー式：時々浸かる式も採用している場合

主に浸かる式：時々シャワー式も採用している場合

※上記の用語については、以下図表同様

※***P<0.001 **P<0.01 *P<0.05

共浴池」の利用世帯の9割弱から、「あった方がよい」との回答が得られた。「住宅内衛生間」のみの利用世帯の場合は、その5割が「あった方がよい」と考えている。つぎに、入浴方法別にみると、「浸かる式」をよく利用する世帯ほど、「公共浴池」に対する依存度が高くなっている、さらに、年齢別にみると、年齢が高くなるほど、「あった方がよい」と考える世帯が高率であることがわかった。

以上、都市集合住宅の居住者における「公共浴池」の利用は、「住宅内衛生間」の整備にともない、減少してきたことが明らかになったが、前述のように、「公共浴池」には、「空間的にゆっくり入れる」「自宅で済ませるより経済的」「職場の人との交流ができる」などの長所があるため、多くの居住者は、なお「公共浴池」の必要性を強く感じている。したがって、「公共浴池」は、今後徐々に改善されつつ（例えば、衛生的条件を良くする、利用できる時間帯を増やす、種々の機能を持つシャワー器具やマッサージ等のサービスを導入する等）、なお存続しつづけると考えられる。

3) 温泉とサウナの経験について

さらに今後の入浴慣習の動向を確かめるため、温泉とサウナの利用について尋ねた（図6）。温泉体験のある者は7割強であり、サウナ風呂の体験者は3割であり、比較的に利用されている。

中国は、火山が少ないため、温泉が少なく、したがって、これまで温泉は、皇族や貴族、そして国の上層部の療養や医療にしか利用されず、一般の庶民にとっては程遠い存在であった。ところが、近年日本等の影響*8により、一部の中国人は、健康のために、定期的

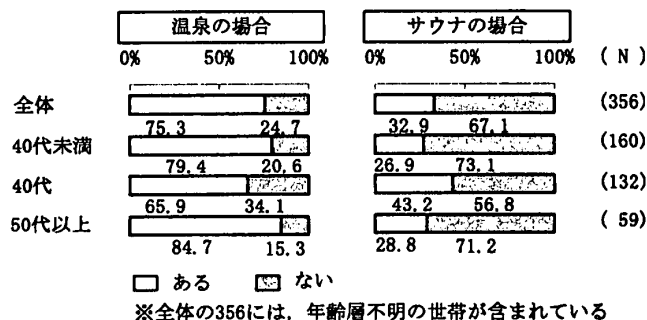


図 6. 温泉とサウナにおける体験の有無—年齢別—

に温泉浴を利用するようになってきている。これらのことを背景に、近年西安においては、硫黄成分が含まれる地下水の開発が盛んに行われ、この硫黄成分が含まれる湯を利用する温泉浴が普及しはじめた。そこで、経済的に力のある国有の企業や病院・研究所などでは、国から許可を得て、従業員の入浴に温泉の湯を利用しはじめた。このことが、今回の調査対象世帯に温泉浴体験者が多いことに影響している。

また、70年代以降、経済改革政策の導入にともない、多くの外来の文化が中国に広く伝えられた。サウナ風呂もその1つである。しかし現在では、その数はまだ少なく、入浴料金も比較的高価なため（普通の「公共浴池」の約5～10倍）、一部の高収入の人々にしか利用できない現状である。なお、サウナ風呂の利用状況と年齢との関連性をみた結果、他の年齢層に比較して、40代にサウナ体験者が最も多く、7割を占めていることがわかった（図6）。これには、40代の居住者には、前述のように、高所得層に属する者が比較的多いことが影響していると考えられる。さらに、サウナ風呂は、美容やダイエットに効果があるといわれ、中国の都市部では、とくに若い女性に人気がある。以上のように、「サウナ風呂」や「温泉浴」の出現により、都市居住者の入浴生活が多彩になってきたといえよう。

(3) 居住者の入浴意識について

1) 夫と妻の入浴意識—4つの入浴目的からみた—

入浴に対して抱いていると考えられる目的を4項目設定しその意識を尋ねた。その結果、表7のように、夫と妻による差はみられず、双方ともに「清潔のため」に入浴しているものは5割強を占め、最も多いことがわかる。ついで3割強の夫と妻は、「習慣となってい

*8 中国では、「日本は世界一の長寿国になったのは、日本国民が温泉好き、風呂好きな民族であるから」といわれている。

大都市西安における公共浴池の利用と住宅内衛生間における居住者の入浴慣習の実態（第1報）

る」と回答している。なお、入浴の目的を年齢別にみたが、年齢との関連性はみられなかった。

前述のように、中国は内陸国家であるので、東南沿岸地域をのぞく大半の地域は、水源に乏しい地域であり、人々にとっては、水は極めて貴重なものである。このために、多くの居住者は、「清潔のため」という最も基本的な目的で入浴し、日本人によく見られる、入浴に「楽しみ」を求めるという意識があまり育っていないと考えられる。

2) 夫と妻の入浴意識

図7は、夫と妻の入浴意識を示したものである。入浴慣習の背後に存在し、居住者が抱いていると考えられる入浴意識を7項目⁸⁾あげ、考察した結果、夫と妻ともに、「清潔」をあげる者が多く、その数は9割強にも達している（複数回答）。ついで、「疲労回復」においては、夫の6割強、妻の5割弱が、入浴行為にこれを求めている。なお、「美容」と「気分転換」の2項目については、夫と妻の間に違いがみられ、妻の3割強は、「美容」効果を図るために、夫の3割強は「気分転換」のために入浴していることがわかった。

つぎに、夫と妻における入浴意識と年齢との関連性について考察した結果は表8のとおりである。

まず、妻の場合をみると、年齢の増加にともない、「疲労回復」や「暖まる」を求める割合が高くなる傾向がみられた。これは、共働きの女性が仕事や家事、育児などで疲れる、冷え症になりやすい、等の理由から、中・高年層の女性が入浴に「疲労回復」や「暖まる」を強く求めていると考えられる。「くつろぎ」に

おいては、若いほどその意識が強くなり、「美容」においては、中年層がこれを強く意識していることが特徴的である。生活水準が高くなってきた⁵⁾。現在では、日本や西洋の影響をより強く受けている若年層における生活を楽しむ意識が、他の年齢層に比べて強いことが関連しているといえる。後者の場合、他の年齢層の女性に比べて、種々の意味において余裕のある中年層の女性は、「美容」（肌の手入れなど）にとりわけ強い関心を持つようになったものと考えられる。

つぎに、夫の場合をみると、50代以上の夫の7割は、「疲労回復」のために入浴していることがわかった。この点では、中・高年層の女性と類似している。また、若年層ほど、「気分転換」に対する意識が強くなっていることが特徴的といえる。

以上述べたように、男女にかかわらず、多くの居住者は、「清潔」や「疲労回復」のために入浴しているが、若年層や女性では、「くつろぎ」「美容」「気分転換」などを求める割合が増え、都市居住者の入浴意識が多様化してきていることがわかった。また、都市居住者の入浴意識を多様化させた背景に、生活水準の向上が存在していると考えられる。

(4) 入浴慣習からみた中国の都市居住者における入浴様式の動向

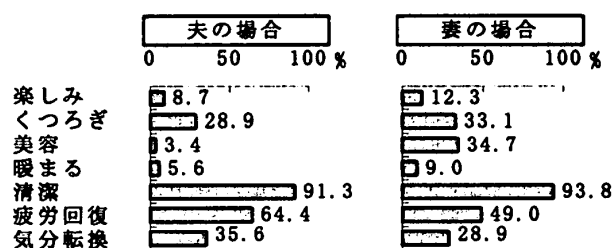
1) 入浴方法の実態とその理由

図8のように、調査対象世帯の8割弱は、「シャワー式のみ」という入浴方法で、入浴を済ませている。「主にシャワー式であるが、時々浸かる式」を採用する世帯を入れると、その数は非常に多く、9割強にも

表7. 夫と妻の入浴の目的—年齢別—

		楽しみにしている	習慣となつて	清潔のため	入浴したくない	計 (N)
全体	夫	7.0	32.2	57.7	3.1	100.0 (357)
	妻	8.4	37.8	53.2	0.6	
40代未満	夫	8.1	23.6	67.1	1.2	100.0 (161)
	妻	8.1	37.3	54.0	0.6	
40代	夫	6.1	42.4	46.2	5.3	100.0 (132)
	妻	8.3	40.2	51.5	0.0	
50代以上	夫	6.8	30.5	59.3	3.4	100.0 (59)
	妻	10.2	32.2	55.9	1.7	

※夫と妻の総数は同様 単位：% (N) <不明のぞく>



N=357 (夫と妻の総数は同様) <不明のぞく> [複数回答]

図7. 夫と妻の入浴意識

表8. 夫と妻の入浴意識—年齢別—

	楽しみ		くつろぎ		美 容		暖まる		清 潔		疲労回復		気分転換	
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻
全体	18.7	12.3	28.9	33.1	3.4	34.7	5.6	9.0	91.3	93.8	64.4	49.0	35.6	28.9
40代未満	8.7	9.9	25.5	36.6	3.1	29.2	3.1	5.0	93.2	91.9	64.6	46.0	37.3	30.4
40代	9.1	15.9	34.8	31.1	4.5	41.7	7.6	11.4	87.1	93.2	60.6	48.5	35.6	25.8
50代以上	8.5	11.9	27.1	30.5	1.7	32.2	6.8	13.6	100.0	100.0	71.2	55.9	27.1	32.2

※夫と妻の総数は同様 単位：% <不明のぞく> [複数回答]

達している。前述のように、本研究の調査対象住宅は、「住宅内衛生間」により、3つのタイプに分かれているので、まず、入浴方法をタイプ別にみていく。表9のように、タイプ2の住戸の中には、「時々浸かる式」の入浴方法を採用する世帯が比較的多く、タイプ3の住戸には、「シャワー式のみ」の入浴方法を採用する世帯の占める割合が最も高いことがわかった。タイプ2の住戸に「時々浸かる式」の割合が高いのは、タイプ2の住戸に浴槽が設置されているからと考えられる。一方、「公共浴池」を利用する世帯ほど、「時々浸かる

式」を採用する割合が高いことから、入浴方法は、入浴空間と関連性があることが明らかになった。

つぎに、入浴方法を男女別、タイプ別にみていく。表9のように、男性より女性の方が、浸かる式を採用する人数が少ないことが明らかになった。これは、前述のように、中国の女性特有の衛生観念⁷⁾によるものとする。また、タイプ3の居住者に「シャワー式のみ」の世帯が多いことは特徴的である。これには、タイプ3は他のタイプより若年層が多いことが影響しているとする（平均年齢 タイプ1：44.2歳、タイプ2：43.2歳、タイプ3：38.7歳）。以上から、若年層や女性が、「シャワー式」を好んでいることがわかる。

さらに、「シャワー式」がよいとする理由をみると（図8）、複数回答において、「衛生的」という理由をあげる世帯が最も多く、9割弱を占めている。単数回答では、5割弱がこの理由をあげ、複数回答と同じ傾向がみられる。これには、以下の理由が考えられる。

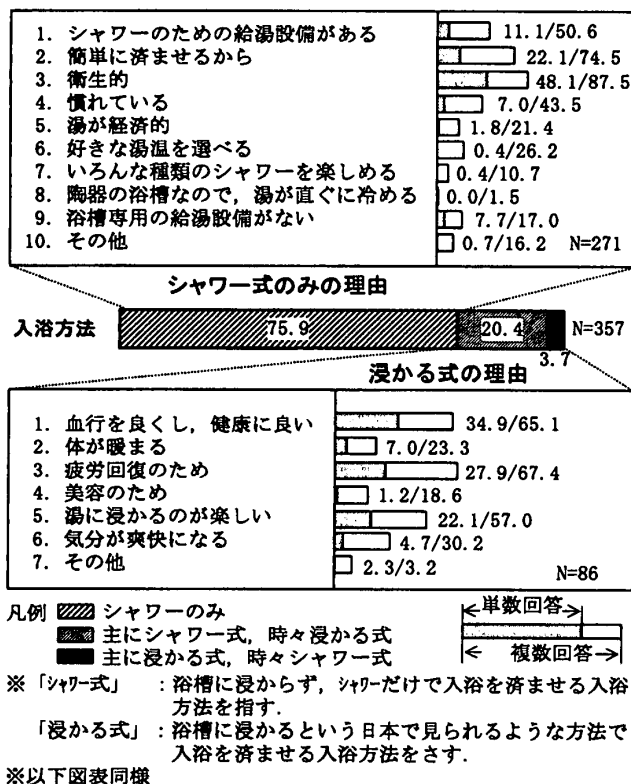


図8. 入浴方法とその理由

表9. 入浴方法—男女別・年齢別・タイプ別—

	シャワー式のみ	主にシャワー式、時々浸かる式	主に浸かる式、時々シャワー式	計 (N)
タイプ別 ***				
タイプ1	69.7	23.5	6.7	100.0(119)
タイプ2	67.0	28.6	4.5	100.0(112)
タイプ3	89.7	10.3	0.0	100.0(126)
男女別				
男	74.2	22.0	3.8	100.0(182)
女	77.1	19.4	3.5	100.0(170)
年齢 *				
40代未満	81.4	17.4	1.2	100.0(161)
40代	71.2	22.0	6.8	100.0(132)
50代以上	69.5	27.1	3.4	100.0(59)
入浴空間				
1. 住宅内衛生間のみ	78.3	19.5	2.2	100.0(266)
2. 自宅内衛生間と公共浴池の両方	69.7	22.5	7.8	100.0(89)

※公共浴池のみの2世帯のぞく 単位：% (N) <不明のぞく>
 χ^2 検定：***P<0.001 **P<0.01 *P<0.05

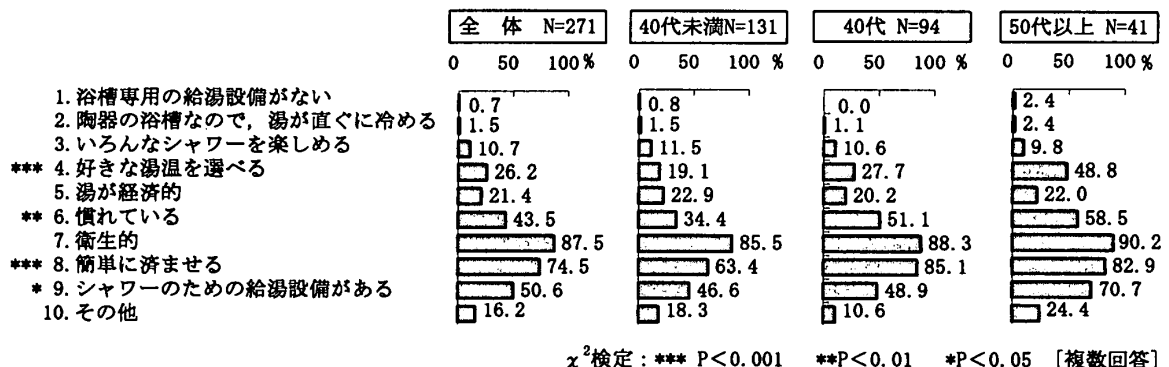


図9. 「シャワー式」入浴方法を採用する理由—年齢別—

大都市西安における公共浴池の利用と住宅内衛生間における居住者の入浴慣習の実態（第1報）

表 10. 夫と妻の冬夏における入浴回数—入浴空間別—

		入 浴 回 数										計
		1日に1回以上		1日に1回		週に2～3回		週に1回程度		その他		
		冬季	夏季	冬季	夏季	冬季	夏季	冬季	夏季	冬季	夏季	
1. 住宅内衛生間のみ	夫	2.6	36.8	3.0	47.7	56.0	11.3	37.6	3.0	0.8	1.1	100.0 (266)
	妻	2.9	42.9	7.9	43.6	61.7	11.7	28.6	0.4	0	1.5	
2. 住宅内衛生間と 公共浴池の両方	夫	2.2	40.4	3.4	46.1	61.8	13.5	32.6	0	0	0	100.0 (89)
	妻	2.2	43.8	3.4	46.1	67.4	9.0	27.0	1.1	0	0	

※夫と妻の総数同様・公共浴池のみの2世帯をのぞく

単位：％(N) <不明のぞく>

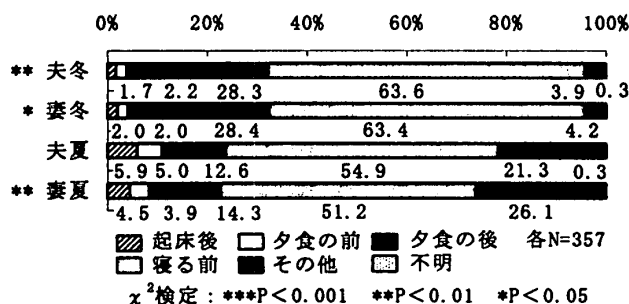


図 10. 入浴の時間帯—夫と妻における冬夏別—

中国では、「住宅内衛生間」が整備されたのは、ここ十数年以内のことである⁹⁾ため、人々は長年「公共浴池」を使用してきた。前述のように「公共浴池」の場合、男性側にしか浴槽が設置されてこなかったため、「シャワー式」の入浴方法に慣れてきた経緯がある。さらに、多くの中国人には、浴槽に浸かりながら身体を洗う慣習があるため、「公共浴池」の浴槽の湯は、きれいとはいえない。このような状況から、①「シャワー式」の入浴方法が衛生的であるという意識や、②浴槽に浸かるのは、皮膚病や婦人病に感染する恐れがあるという意識が持たれてきた。このようなことが、「シャワー」志向を強めた一因になっていると考えられる。

ついで、「簡単に済ませる」という理由をあげる世帯が多く、7割強を占める。これには、中国における入浴意識が関係していると考えられる。入浴に、清潔のためだけでなく、楽しみやくつろぎも感じる日本人⁸⁾とは異なり、主として身体の清潔のために入浴している中国人にとっては、「シャワー式」の入浴方法が最適なものとなっているといえる。

さらに、「浸かる式」をしている理由をみると、図8のように、「血行を良くし、健康に良い」「疲労回復

のため」「浸かるのが楽しい」などの理由が多い。湯に浸かることにより疲れが癒され、血行が良くなり、健康に良いという意識が、「浸かる式」の入浴方法を支えていることがわかる。

以上のように、「浸かる式」の入浴方法は存在しているが、全体としてこの入浴方法は少ない。「シャワー式」の入浴方法は、その簡便さゆえに、主たる入浴方法として、中国の都市居住者に浸透し、とくに女性や若年層ほど「シャワー式」の入浴方法をとる傾向がみられる。「浸かる式」を存続させるには、共同で使う湯の清潔さを保とうとする入浴のマナーが必要である。

2) 入浴回数・入浴時間帯・入浴場所について—「公共浴池」と「住宅内衛生間」における—

西安は内陸性気候であり、湿気が少なく、冬は寒く、夏は暑いという気候である。このような気候条件から、表10のように、冬季には、入浴は非日常的な行為であるが、夏季には、日常的な行為となっている。身体の清潔のために、季節によってその必要に応じて入浴の頻度を調節していることがわかる。

入浴時間帯については(図10)、季節により変化がみられる。冬季には、「寝る前」や「夕食の後」に、入浴を済ませる割合が高いが、夏季には、「その他」(時間帯が決まらず、随時入浴している)や「起床後」の割合が高くなる。これには、①生活水準の向上にともない、清潔意識が高まったこと、②利用に制限のない「住宅内衛生間」の整備により、随時入浴できるようになったことなどが関係していよう。

さらに、「住宅内衛生間」に浴槽が設置されている147住戸世帯に、シャワーを浴びる場所について尋ねた結果(図11)、「浴槽の外」が5割強であり多い。なお、「浸かる式」をする世帯ほど、「浴槽の中」でシャワーを浴びる割合が高いことから、入浴方法との関連性が強いことがわかる。

3) 「浸かる式」の入浴方式について

「浸かる式」を採用する世帯における入浴方式を整理したものが表11である。「浸かる式」を採用する人

⁹⁾ これまでは、旧ソ連の影響もあり、一部の都市集合住宅に3点1室の「住宅内衛生間」が導入されたが、冷暖房設備や給湯設備が不十分のため、これらの「住宅内衛生間」は、都市居住者における日常の入浴に使用されなかった。

表 11. 浸かる式入浴方法を採用している世帯の入浴の実態

「浸かる式」を採用する人		「シャワー式のみ」で済ませる場合		浴槽に溜める湯の量		「浸かる式」を採用する割合	
全員	43.0 (37)	夏季	59.3 (51)	3分の1	2.3 (2)	毎日	1.2 (1)
夫	45.3 (39)	忙しい時	18.6 (16)	3分の2	43.0 (37)	週に2, 3回	38.4 (33)
妻	20.9 (18)	浸かるのが面倒な時	15.1 (13)	半分	23.3 (20)	週に1回	22.1 (19)
息子	25.6 (22)	寝泊まりの客がいる時	1.2 (1)	八分目	31.4 (27)	1ヶ月に1回	2.3 (2)
娘	18.6 (16)	その他	5.8 (5)	計	100.0 (86)	年に数回	1.2 (1)
祖父	4.7 (4)	計	100.0 (86)			特に決まってい	34.9 (30)
祖母	2.3 (2)					ない	
[複数回答]	N=86					計	100.0 (86)

単位：% (N) <非該当・不明のぞく>

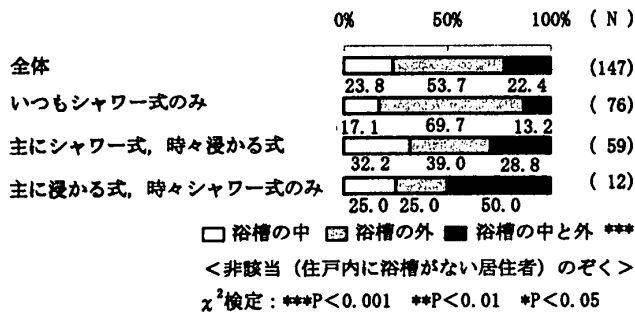


図 11. シャワーを浴びる時の場所—入浴方法別—

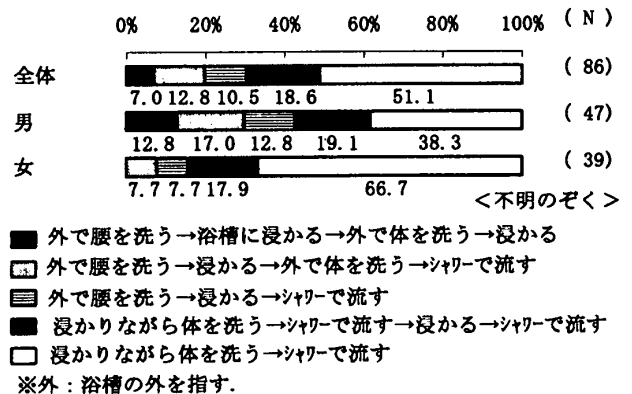


図 12. 「浸かる式」を採用する場合の入り方—男女別—

は、「夫」が4割強で多い。前述のように、中国人の衛生観念などによるものと考えられる。また、中国では、夏季に、都市における水不足の問題が深刻なため、「シャワー式のみ」で入浴を済ませる場合は「夏季」に多くなる。さらに、浴槽に溜める湯の量は、「3分の2」が最も多く、肩までつかる湯量をためている。また「浸かる式」の入浴は日常的に行われず任意的なものになっている。

つぎに、「浸かる式」をする世帯に、風呂の入り方について尋ねた結果、図 12 のように、「浴槽の中で体を洗う・シャワーで流す」という欧米でみられるような入り方をする世帯は、7割弱を占め最も多い。「外で腰を洗う・浸かる・外で体を洗う・シャワーで流す」という日本でみられるような入り方をする世帯は、2割弱で、比較的少ない。これは、中国人における従来の風呂の入り方によるところが大きいといえる。

なお、図 12 のように、「浸かりながら体を洗う・シャワーで流す」という入り方の場合、男女による違いがみられ、この入り方をする女性は7割弱占め、男性の約2倍である。また、「外で腰を洗う・浸かる・外で体を洗う・浸かる」という入り方をする女性はいないのが特徴である。これは、前述のように、中国女性特有の衛生観念⁷⁾によりもたらされたものであると考える。

さらに、湯の使い方については、「浸かる式」の入

浴方法をする世帯の9割弱 (76/86) に、「1人ごとに湯を替える」習慣があることがわかった。これは、前述のように、中国人の衛生観念や浴槽に浸かりながら身体を洗うという入浴の仕方によるところが大きいと考える。

4. 要 約

本報では、居住者の「公共浴池」の利用状況と「住宅内衛生間」の入浴状況から、居住者の入浴慣習の実態を明らかにするとともに、「公共浴池」と「住宅内衛生間」の利用関係から今後の入浴慣習の動向について考察した。さらに、入浴慣習の背後に存在する居住者の入浴意識について考察を加え、今後の発展方向を探ろうとした。その結果をまとめると以下のとおりである (図 13)。

(1) 生活水準と住生活意識の向上にともない、生活の便利さや快適さを追求する意識が強くなったこと、大量生産により給湯設備の価格が安価になり、「住宅内衛生間」が整備されてきたこと、さらに、「公共浴池」の使いづらさも加わって、便利な住宅内の浴室利用を推し進め、都市集合住宅の居住者の「住宅内衛生間」に対する志向が強まっている。

(2) 「公共浴池」は、中国都市集合住宅の居住者の

大都市西安における公共浴池の利用と住宅内衛生間における居住者の入浴慣習の実態（第1報）

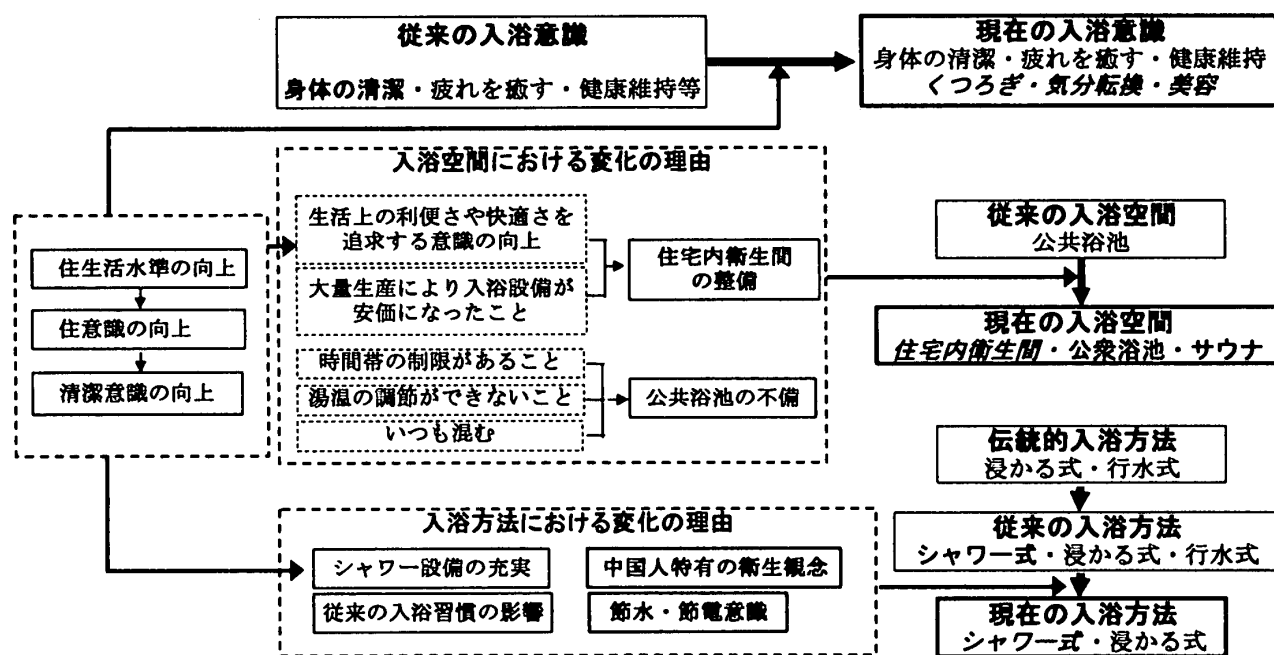


図 13. 本研究のまとめ

入浴生活において、長年重要な役割を果たしてきたが、「住宅内衛生間」の空間の整備と入浴設備の充実にともない、居住者の「公共浴池」への利用が減少してきている。

(3) 「公共浴池」の長所は、一部の居住者が、その必要性を強く感じており、「公共浴池」の今後の存続可能性が指摘できる。

(4) 「公共浴池」の存続には、入浴意識の変化、入浴空間に対する要求を考慮した空間整備、衛生面やサービス内容、入浴設備の改善、利用者における湯の使用マナーの会得などが必要である。

(5) 温泉浴やサウナ風呂の出現と普及は、都市集合住宅の居住者の入浴生活を充実させ、今後生活水準の向上と入浴意識の変化にともない、これらの入浴施設を楽しむ居住者が増えつつあることが示唆できる。

(6) 生活意識の変化や生活水準の向上にともない、若年層や女性では、入浴に「くつろぎ」「美容」「気分転換」などを求める傾向がみられたように、都市居住者における入浴意識が多様化してきている。

(7) 少数ではあるが、一部の都市居住者に「浸かる式」の入浴方法がなお存在している。湯に浸かることにより、疲れが癒され、血行が良くなり、健康に良いという意識が、伝統的な「浸かる式」の入浴方法を支えていることが確認された。

(8) 簡便さと燃料代が少なくても済むなどの利点があり、「シャワー式」の入浴方法は、主な入浴方法と

して、都市集合住宅の居住者に浸透し、とくに女性や若年層ほど「シャワー式」の入浴方法をとる傾向が強い。

(9) 中国都市集合住宅の居住者の入浴は、夏季には日常的な行為であるが、冬季には非日常的な行為となっている。さらに、一部の居住者が朝、入浴するようになったように、「住宅内衛生間」の整備や入浴意識と清潔意識の向上により、都市集合住宅の居住者の入浴習慣に変化が生じてきている。

(10) 中国都市集合住宅の居住者の入浴様式、入浴意識、入浴慣習において、著しい変化が生じてきていることが確認された。これらの変化に適応した入浴空間の平面計画が今後の重要な課題であり、ひきつづき、第2報でとりあげる。

引用文献

- 1) 種村季弘, 高木万里子:『世界温泉文化史』, 国文社, 399 (1994)
- 2) 孫 伯醇, 松村一弥:『清俗紀聞』, 平凡社, 93-94, 版画 96-97 (1966)
- 3) 吉田集而:『風呂とエクスタシー—入浴の文化人類学』, 平凡社, 142 (1995)
- 4) 趙 萍, 今井範子:中国都市集合住宅の居住者における『上下足分離』の住様式の進展とその動向, 日本建築学会計画系論文集, 第550号, 121-128 (2001)
- 5) 林 建平:中国における集合住宅の近代化—都市における居住状況と今後への課題, 特集●アジアの都市居住, 32号, 36-46 (1994)

- 6) 王 青, 鈴木 毅, 高橋鷹志: 日中協力による『中国都市小康住宅プロジェクト』の試験住宅における考察 集合住宅における住様式の日中比較研究 その6, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 5435-5437 (1996)
- 7) 趙 萍, 町田玲子: 中国帰国者の住生活に関する研究 (第2報) 中国と日本における住文化や生活習慣の違いがもたらす影響について, 家政誌, **50**, 521-529 (1999)
- 8) 今井範子: 住様式からみた住宅平面に関する研究, 京都大学学位論文, 317-351 (1986)